観光地における町並景観と観光資源としての建築物の関わりについての調査・分析
－伊豆・松崎町を例として－

日大生産工（院）　○河津　正哉
日大生産工　　坪井　善道

１．はじめに

静岡県は，富士山・伊豆半島・浜名湖・日本平・御前崎・寸又峡など，日本有数の観光資源を擁しており，年間１億 2900 万人（平成 14 年）*1の観光客が訪れている。中でも伊豆は，温泉どころとして全国に名が知られている。伊豆には温泉以外にも海・山等の多くの観光資源があり，静岡県の宿泊客数の60%以上を伊豆半島が占めており他の地域を圧倒している状況である。

松崎町は伊豆半島西海岸の南端に位置し，かつては養蚕と漁業で栄えた町である。また松崎町には多くの「なまこ壁」の建物（町内合計 209 戸）が，母屋・土蔵として人々の日常生活の中に溶け込んで残っており，現在は「なまこ壁」の残る町並みを中心とした歴史的文化遺産と温泉，自然を観光資源とする観光地である。

２．研究の目的

観光地は観光施設など都市の一部の地域に観光資源があるのではなく，その観光資源を活かして都市全体を一体的に観光都市としていくべきである。本稿では，自然的観光資源の多い伊豆の中でも歴史的建築物を観光資源としている松崎町を調査対象都市とし，観光地における町並景観と観光資源としての建築物がどのように関わってくるのかを調査・分析することで，観光地における観光資源が都市景観にどのような影響を与えているのかを明らかにしていくことを目的としている。

３．心理量分析（ＳＤ法）

１）調査対象地区及び調査箇所のポイントサンプリングによる選定

調査対象地区は松崎町の町の中心部とする。町の中心部に１キロメートル四方のメッシュを被せ，メッシュの間隔は 50 メートルとし，地図上でグリッドが交差し，かつその場所が街路である箇所をポイントサンプリングし調査地点とした。調査箇所は全部で 73 箇所となり，サンプルとなる街路は 174 街路となった（図 1)。

２）評価方法

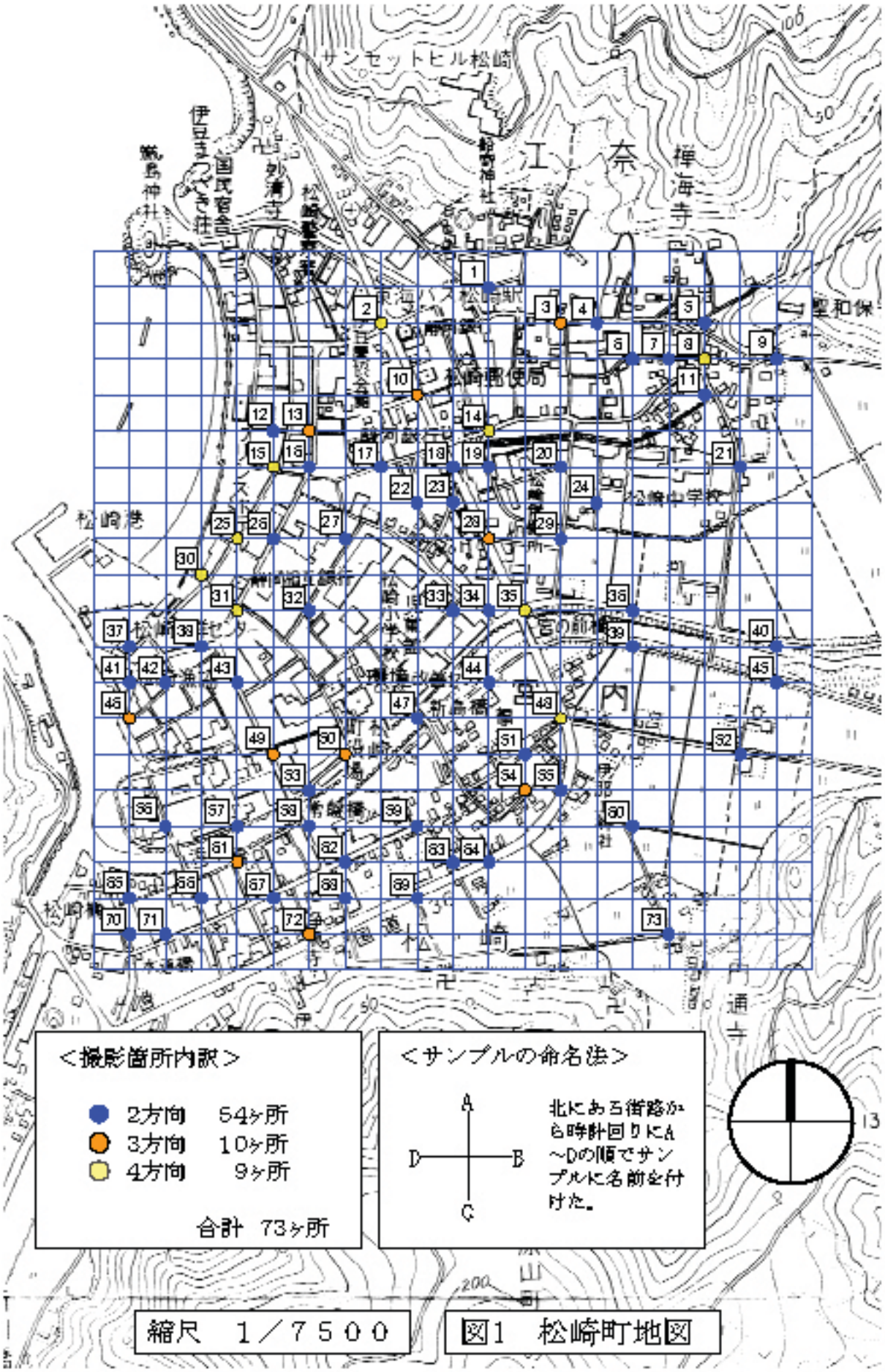
評価実験において，サンプルである街路をできるだけ正確に被験者に伝えるために，人の視野の範囲に近い 35 ミリのレンズを使用し，その地点における全ての方向の街路を撮影した。評価実験を行うにあたり被験者には地名等サンプルの情報を一切与えない状態で行った。評価実験には写真を被験者（本学

表１　形容詞対

形容詞番号	プラス側	マイナス側
1	明るい	暗い
2	親しみやすい	よそよそしい
3	活気のない	活気のある
4	複雑な	単純な
5	多様な	一様な
6	落ち着きのある	落ち着きのない
7	特徴のある	特徴のない
8	良い	悪い
9	整然とした	雑然とした
10	まとまりのある	まとまりのない
11	きれいな	汚い
12	見慣れた	見慣れない
13	統一感のとれた	ばらばらな
14	古い	新しい
15	伸び伸びした	窮屈な
16	開放的な	閉鎖的な
17	美しい	醜い
18	田舎的な	都市的な
19	緑の多い	緑の少ない
20	変化にとんだ	単調な
21	伝統的な	現代的な
22	雰囲気のある	雰囲気のない
23	好きな	きらいな
24	個性的な	平凡な
25	印象的な	印象的でない
26	調和にとんだ	不調和な
27	地味な	派手な
28	自然的な	人工的な
29	規則的な	不規則な
30	風情のある	風情のない
31	魅力のある	魅力のない
32	洗練された	素朴な

Survey and Analysis on the Relationship between the Historical Building as the Tourism Resources and Townscape of the Tourist Resort.
-A Case Study on Matsuzaki-chou IZU-

Masaya KAWAZU , Yoshimichi TSUBOI



縮尺　1／7500

図1　松崎町地図

建築工学科学生 22 名）に見せ，32 の形容詞尺度（表 1）を使用し，174 箇所の 5 段階評定による総合評価と 7 段階評定によるＳＤ法の評価を行った。

３．因子分析

評価結果を数値化し，そのデータを用いて主因子法による因子分析を行った。因子寄与率及び固有値から第 4 因子までの因子軸を解釈した（表 2)。

１）因子特性の解釈

①第１因子

「特徴のある」「統一感のとれた」「美しい」「伝統的な」「雰囲気のある」「個性的な」「印象的な」「調和にとんだ」「風情のある」「魅力のある」等が関わってくることから**「松崎町景観形成特性因子」**と解釈した。

②第２因子

「明るい」「親しみやすい」「伸び伸びした」「開放的な」が関わってくることから**「開放性因子」**と解釈した。

③第３因子

「活気のない」「見慣れない」「古い」「田舎的な」「地味な」が関わってくることから**「都市のイメージ因子」**と解釈した。

④第４因子

「複雑な」「多様な」「変化にとんだ」が関わってくることから**「多様性因子」**と解釈した。

２）因子得点から見た因子特性（表３）

①第１因子得点　（松崎町景観形成特性因子）

上位サンプルでは山や木，海などの自然の要素を多く含むサンプルが高い得点となっている。また，松崎町の観光資源である「なまこ壁」が上位 20 サンプル中 9 サンプル入っていることから，「なまこ壁」は松崎町の景観形成評価に大きく関わっていることが窺える。

②第２因子得点　（開放性因子）

上位 5 サンプルとも共通しているのが，両側もしくは片側に開放的な田園風景が写っているサンプルとなっており一方，下位 5 サンプルは全てにおいて狭隘道路幅員の密集街区の街路景観となっている（表 4)。

③第３因子得点　（都市のイメージ因子）

上位サンプルには松崎町の市街地が多く写っており，下位サンプルには国道沿いの銀行・郵便局など町の中心部分が写っている結果となった。

④第４因子得点　（多様性因子）

上位サンプルには国道沿いに建つ乱雑した町並みが写っており，下位サンプルには田園風景やあまり特徴のない町並みが写っている結果となった。

表２　因子負荷量表及び固有値表

変数名	プラス側	マイナス側	因子№ 1	因子№ 2	因子№ 3	因子№ 4
6	落ち着きのある	落ち着きのない	0.737733	0.412409	0.319653	-0.28942
7	特徴のある	特徴のない	0.893514	0.164305	0.132003	0.203967
8	良い	悪い	0.833339	0.510684	0.059742	-0.04361
9	整然とした	雑然とした	0.744907	0.437677	-0.15359	-0.36015
10	まとまりのある	まとまりのない	0.810555	0.376491	-0.10489	-0.37295
11	きれいな	汚い	0.768998	0.570078	-0.11142	-0.15878
13	統一感のとれた	ばらばらな	0.761358	0.399103	-0.12206	-0.40723
17	美しい	醜い	0.786923	0.566683	-0.04462	-0.12273
19	緑の多い	緑の少ない	0.578509	0.548692	0.291224	-0.12714
21	伝統的な	現代的な	0.727472	0.168209	0.550663	0.052207
22	雰囲気のある	雰囲気のない	0.89548	0.306218	0.241793	0.022109
23	好きな	きらいな	0.864119	0.435027	0.09898	-0.05164
24	個性的な	平凡な	0.918664	0.055331	0.135675	0.238124
25	印象的な	印象的でない	0.930817	0.16409	0.175488	0.088159
26	調和にとんだ	不調和な	0.85467	0.390444	0.023822	-0.22277
28	自然的な	人工的な	0.698783	0.470433	0.451349	-0.08585
29	規則的な	不規則な	0.733535	0.287301	-0.24764	-0.39063
30	風情のある	風情のない	0.902085	0.324443	0.21227	-0.02341
31	魅力のある	魅力のない	0.908184	0.359439	0.107595	-0.02152
32	洗練された	素朴な	0.652218	0.066896	-0.51866	0.077886
1	明るい	暗い	0.232437	0.809772	-0.31984	0.043104
2	親しみやすい	よそよそしい	0.630943	0.651023	0.093671	0.143125
15	伸び伸びした	窮屈な	0.452347	0.830916	-0.14301	-0.07204
16	開放的な	閉鎖的な	0.442601	0.832675	-0.16098	-0.03181
3	活気のない	活気のある	-0.13598	-0.35888	0.643755	-0.50314
12	見慣れた	見慣れない	-0.40457	0.233706	-0.49423	-0.12488
14	古い	新しい	0.133364	-0.26096	0.867956	-0.01676
18	田舎的な	都市的な	0.302476	0.148464	0.873778	-0.0697
27	地味な	派手な	-0.26456	-0.06689	0.631029	-0.47159
4	複雑な	単純な	-0.21115	-0.26812	-0.15793	0.829025
5	多様な	一様な	-0.34676	-0.05931	-0.30992	0.802048
20	変化にとんだ	単調な	0.311093	0.181274	0.094171	0.655149
二乗和			14.45851	5.7838	4.144839	3.189979
寄与率			45.18%	18.07%	12.95%	9.97%
累積寄与率			45.18%	63.26%	76.21%	86.18%

因子負荷量：主因子法（バリマックス回転）

表３　因子軸別因子得点最高値・最低値

因子№ 1　松崎町景観形成特性因子						因子№ 3　都市のイメージ因子					
ﾃﾞｰﾀNo	サンプル名	最高値	ﾃﾞｰﾀNo	サンプル名	最低値	ﾃﾞｰﾀNo	サンプル名	最高値	ﾃﾞｰﾀNo	サンプル名	最低値
161	67-B	2.3718	37	14-D	-2.1102	128	52-A	1.95952	92	36-B	-2.5388
147	61-A	2.19965	26	10-C	-1.7887	157	65-B	1.94846	25	10-B	-2.4646
167	70-B	2.14226	130	53-A	-1.7057	13	05-B	1.88483	5	02-C	-2.3002
111	46-A	2.04076	44	17-A	-1.5251	19	08-B	1.73822	172	72-C	-2.2268
163	68-B	2.02014	58	24-A	-1.4634	104	42-B	1.61639	68	28-A	-2.1566
因子№ 2　開放性因子						因子№ 4　多様性因子					
ﾃﾞｰﾀNo	サンプル名	最高値	ﾃﾞｰﾀNo	サンプル名	最低値	ﾃﾞｰﾀNo	サンプル名	最高値	ﾃﾞｰﾀNo	サンプル名	最低値
146	60-B	2.30982	80	31-D	-2.8254	25	10-B	2.64764	100	40-B	-2.5667
129	52-B	1.90713	54	22-A	-2.5828	87	35-A	2.45371	33	13-C	-2.2117
145	60-A	1.76021	156	65-A	-2.3795	46	18-A	2.43571	154	64-A	-2.2028
128	52-A	1.752	39	15-B	-2.1303	6	02-D	2.23914	99	40-A	-1.8248
99	40-A	1.74143	55	22-B	-1.9741	68	28-A	2.05424	29	12-A	-1.7458

表４　第２因子得点　道路幅員

上位サンプル		
ﾃﾞｰﾀNo	サンプル名	道路幅員
146	60-B	4.1m
129	52-B	5.1m
145	60-A	4.1m
128	52-A	5.1m
99	40-A	5.8m
下位サンプル		
ﾃﾞｰﾀNo	サンプル名	道路幅員
80	31-D	2.8m
54	22-A	1.5m
156	65-A	1.6m
39	15-B	1.9m
55	22-B	1.5m

3）因子得点でみる「なまこ壁」

「なまこ壁」の写っている写真 18 サンプル（表 5）の因子得点を散布図に描き，その特性をみる。

表５　「なまこ壁」の写っているサンプル

04－A	58－A	67－B	71－B
49－A	62－B	68－A	72－A
53－B	66－A	68－B	72－B
56－A	66－B	71－A	72－C
56－B	67－A	以上18サンプル	

① 因子Ｎｏ．１×因子Ｎｏ．２

「なまこ壁」を有する街路景観は全体的に松崎町景観形成特性因子（第１軸）に集まり，開放性因子（第2軸)にはあまり関わらない結果となった(図2)。

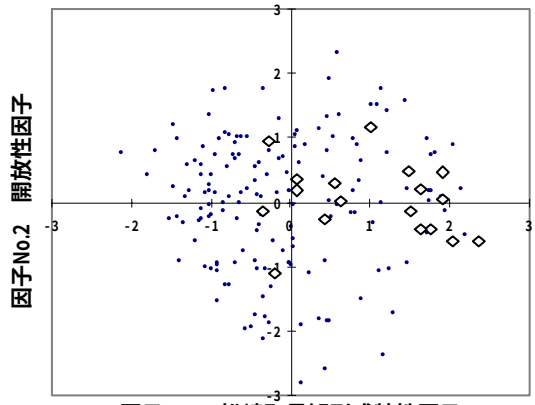


図２　因子Ｎｏ．１×因子Ｎｏ．２

② 因子Ｎｏ．１×因子Ｎｏ．３

「なまこ壁」は比較的都市のイメージ因子（第 3 軸）に集まり，街路景観は都市的な評価となった（図 3)。

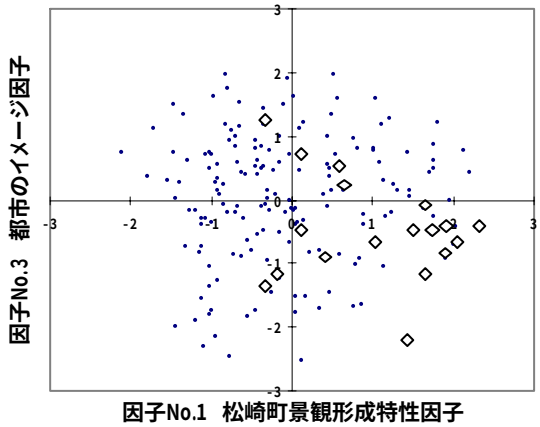


図３　因子Ｎｏ．１×因子Ｎｏ．３

③ 因子Ｎｏ．１×因子Ｎｏ．４

多様性に対する評価が高い結果となった。これは「なまこ壁」の混在する街路景観が関わっていると思われる（図 4)。

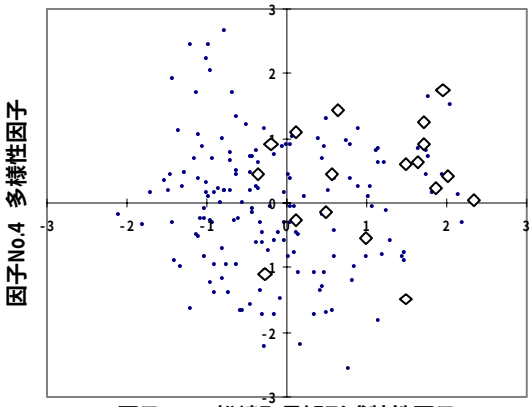


図４　因子Ｎｏ．１×因子Ｎｏ．４

４．第１因子得点と総合評価の比較

松崎町景観形成因子の因子得点と 5 段階評定評価による総合評価を比較してみると，松崎町景観形成特性因子の因子得点では上位に「なまこ壁」の写っているサンプルが多く入る結果に対して，総合評価では自然景観を多く含んだ絵画的風景を有するサンプルが上位を占める結果となった（表 6)。

表６　第１因子得点と総合評価の上位２０

	第1因子得点		総合評価			第1因子得点		総合評価	
1	67-B	2.3718	46-A	4.2857	11	30-D	1.7629	56-B	3.9048
2	61-A	2.1997	61-A	4.1905	12	05-A	1.7547	73-A	3.9048
3	70-B	2.1423	45-A	4.0952	13	73-A	1.7504	03-C	3.8095
4	46-A	2.0408	40-A	4.0476	14	66-B	1.7266	44-A	3.8095
5	68-B	2.0201	57-B	4	15	57-B	1.7212	70-A	3.8095
6	03-C	1.95	70-B	4	16	72-A	1.6445	72-A	3.8095
7	56-B	1.9016	72-C	4	17	71-A	1.6426	05-A	3.7619
8	58-A	1.9011	73-B	4	18	66-A	1.514	35-C	3.7619
9	73-B	1.8222	41-B	3.9524	19	72-C	1.4867	39-B	3.7619
10	41-B	1.7639	60-B	3.9524	20	61-B	1.4748	48-C	3.7619

５．まとめ

因子分析の結果から「なまこ壁」は松崎町の景観形成に大きく関わっていることが分かった。しかし「なまこ壁」のサンプルはサンプル全体の約１割しかなく，総合評価では「なまこ壁」のある景観のサンプルよりも山や水辺といった自然景観を多く含むサンプルの方が評価の高いことから，都市全体を観光資源化していくためには「なまこ壁」の町並のような歴史的観光資源のみではなく，自然的資源を含めた地域空間資源と一体的に都市景観形成を図ることが必要である。今後は行政の観光施策と地元住民の意識を調査し，松崎町全体を観光都市化する可能性を検討していくこととする。

注１:データ出典 Hello Navi 静岡　静岡県観光統計データ
http://kankou.pref.shizuoka.jp/

＜参考文献＞
1)松崎町役場ホームページ
http://www.town.matsuzaki.shizuoka.jp/
２）池内信子「るるぶ情報版'03～'04　伊豆」(JTB, 2003)
３）津久井隆行「京都の歴史的町並みの形成に関わる建築物の形態と景観評価との関わりについて（建築形態の混在の状態と景観評価との関わりについて)」平成 15 年度修士論文